



学校だより

# 夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来（公/開）～

令和5年2月27日

横浜市立左近山小学校  
Sakonjima

3月号

## 「常に前向きに」

校長 徳 留 勇

ちょうど3年前、全国の学校が臨時休業となりました。この3年間、様々な制約の中での学校生活を子どもたちは余儀なくされてきました。今年度の卒業生は小学校生活の半分をコロナ禍で過ごしたことになります。それでも、少しずつ変化する状況に合わせ、今年度も子どもたちは常に前向きに、充実した日々を送ろうと懸命に頑張っていました。

徐々に実施した宿泊体験学習。友達との絆を深め、いきいきと活動を楽しむ子どもたちの姿を見ることができました。仲間と過ごした一夜は一生忘れられない思い出となったと思います。私としても、特に6年生を修学旅行に連れて行ってあげられたことが本当に良かったです。

全校揃っての運動会。一人ひとりが全力を尽くすだけでなく、他学年の演技や競技を応援し、感動や憧れの気持ちをもつことができていました。おうちの方に見てもらい、たくさん褒めてもらったことは、大きな励みになったようです。

仲良し学年での異学年交流も再開しました。下級生を優しくお手伝いしようと、相手の気持ちを考えながら接する上級生の子どもたち。自分たちの頑張ってきたことを披露し、普段お世話になっている上級生に楽しんでもらおうとする下級生の子どもたち。相手意識をもって活動をするを通して大きく成長を遂げました。

地域の方の協力を得て、様々な出前授業を実施していただいたり、子どもたちの発表の機会をいただいたりすることができたのも、子どもたちのよりよい学びとなりました。

コロナ禍で何もできなかったかわいそうな子どもたちと思われがちですが、コロナ禍にも関わらず、懸命に生き、様々なことをやり遂げた今の子どもたちには、制限の中でもよりよい活動をつくらうとする知恵と粘り強さが身につけており、無限の可能性があると私は信じています。

「できないと思うと愚痴が出る。やろうと思うと知恵が湧く。」だいぶ前に教えてもらった言葉です。子どもたちは今後も様々な難題に直面すると思います。「もう無理だ」とあきらめるのではなく、「どうすればよいか」と皆で知恵を出し合い、常に前向きな日々を送ってほしいと願っています。

1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。引き続き子どもたちのことを温かく見守っていただきますようお願いいたします。